

資質・能力を育む効果的な指導のために

単元とは、一体どんな構造なのか？

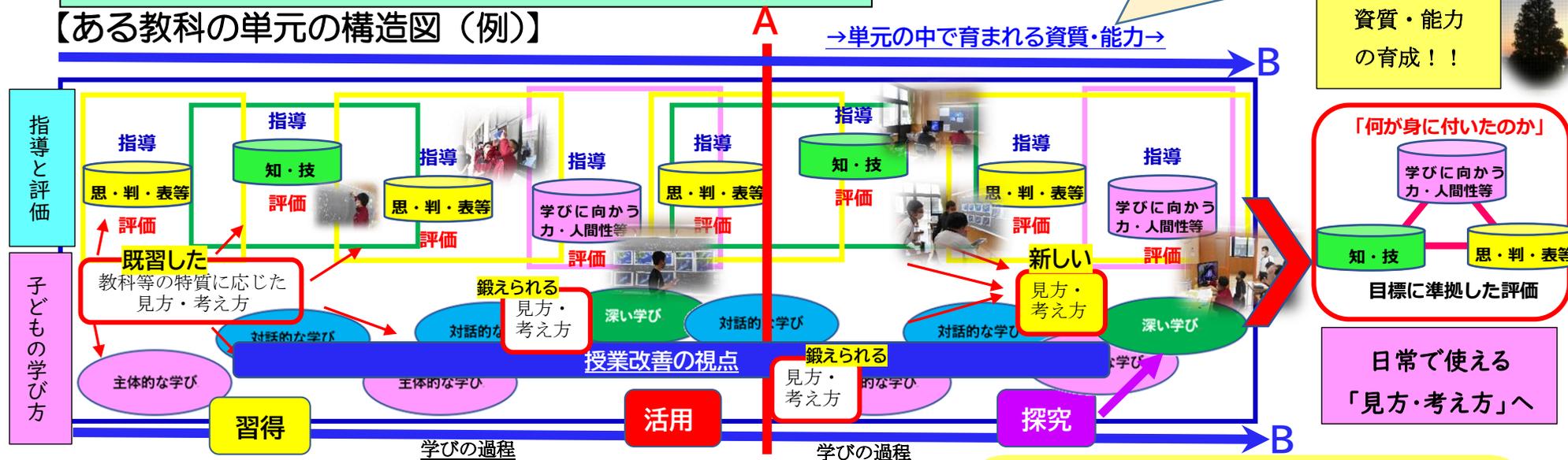


学習指導要領解説総則編や各教科等編の内容から、資質・能力を育むために必要なことが下記のように考えられる。

育成を目指す資質・能力について、指導要領上の【内容】で明確に示している。
つまり大切なのは **「単元」**

実践例等は、本校の「研究集録R2」
をご覧ください。

【ある教科の単元の構造図（例）】



【まとめ】 上の構造図から、例えばAの視点だけで授業研究をしても、本当にその資質・能力が育まれたのか、十分に考えられていない可能性があります。だからこそ、資質・能力を育むために、単元のまとまりを研究し、観点別学習状況の評価、子どもの学びの視点における授業改善視点など、Bの視点（単元のまとまり）で授業を考える必要があります。

これは、授業者としては必須です！！

でも、こんなに、頭の中で日々、考えることができるのか？

・・・難しいですね。だからこそ、シンプルに言語化する必要があります。



これらは、学習指導要領上に示されている内容です。
でも、どうやって実現を・・・、日々の業務も、・・・
その際、シンプルな形で、全てを押さえ、さらに授業が充実し、「ないと不安になる。」と活用した先生が言っていた“単元案”について、「単元をデザインする単元案」にて、ご紹介します。

日々、本質に時間を割き、授業充実を目指す！

(文責：研修主任 富村和哉)

*単元と題材について、考え方の違いは明確ですが、本研究では、子どもの学びのまとまりとして捉え、「単元」と表記しています。